

吃音で悩む人の指針に



「吃音で悩む人たちに見てほしい」と話す伊藤さん—寝屋川市

発声時の言語障害「吃音^{まじおん}」について、日本吃音臨床研究会会長で大阪教育大学非常勤講師、伊藤伸二さん(66)らが2種類の刊行物を発行した。「吃音による心の問題の解決の糸口になれば」と話している。

「吃音ワークブック 子どもの生きぬく力が育つ」(解放出版社刊、1890円)と「学習・どもりカルタ」(日本吃音臨床研究会発行、千円)。

執筆したのは伊藤さんと愛知県、大阪府の小学校教諭や、ろう学校に勤める15人の教師でつくる「吃音を生きる子ども同行する教師の会」のメンバー。伊藤さんを含め執筆者8人が吃

本マニュアルの伊藤研究会会長

音の障害に悩み、「吃音との上手な付き合い方」をマニュアル化したのが「吃音ワークブック」だ。

「どもりの原因について考える」「どんなときに吃^{ども}るか」など16のテーマで、早期自覚教育の必要性を示している。カルタは公募の約2千通から「のびのびとどもる私になりたいな」など44枚を選定した。

伊藤さんは「保護者や教師、言語聴覚士に読んでほしい」と話している。

カルタの申し込みは伊藤さん(☎072・820・824)へ、別途送料160円が必要。